

下記の出席停止期間の基準は、文部科学省発行「学校において予防すべき感染症の解説」(平成25年3月)より抜粋しています。

注2	病名	出席停止期間の基準
第1種	エボラ出血熱、ラッサ熱、特定鳥インフルエンザ、ジフテリア、ポリオ他	治療するまで
第2種	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適切な抗菌薬治療法が終了するまで
	麻疹(はしか)	発しんに伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで
	風しん(三日はしか)	発しんが消失するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで(注4)
	水痘(水ぼうそう)	全ての発しんがかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消退した後2日を経過するまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで
	結核	症状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで(抗結核薬の予防投薬は出席停止に該当しない)
	インフルエンザ(特定鳥インフルエンザを除く)	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで
	第3種	腸管出血性大腸菌感染症
流行性角結膜炎		
急性出血性結膜炎		
コレラ		
腸チフス		
細菌性赤痢		
パラチフス		
その他の感染症(感染性胃腸炎、マイコプラズマ等)	発熱、下痢、嘔吐等、症状が改善し、全身状態が良くなるまで(注4)	

注4 「全身状態が良好になる」とは、支障なく学校生活を送れる状態と考える。

那覇市教育委員会、那覇市医師会と協議済み

おもな学校感染症一覧表

もしかかったら...
学校をお休みしてください

下の一覧表にあげた病気は学校感染症といわれ、たとえ軽症でも登校できません。かかったら学校に届けを出し、医師の許可があるまで家庭で安静にしてください。これは法律で定められた「出席停止」で、欠席あつかいにはなりません。



第1種学校感染症 治療するまで出席停止とする

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリアの11種については、治療するまで出席停止とする。

第2種学校感染症 学童によく起こる感染症 出席停止期間、患者の隔離については守る。診断がついたら学校へ速やかに連絡する

病名	出席停止期間	主な症状	侵入経路	潜伏期間	感染可能期間	予防方法	好発期
インフルエンザ	発症した後5日経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで(最短でも5日間)	発熱、頭痛、腰痛、全身倦怠感、鼻づまり、くしゃみ、たん	気道飛沫	1~3日	発病後3~4日	流行時には人ごみの中ではマスク、うがい、手洗いを。予防注射も効果があるが、菌型が異なるため効力がない。	冬
百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌薬治療法が終了するまで	はじめは軽い咳。のどの発赤がみられる。発病後1週間くらいからコンコンという咳が出る	気道飛沫	1~2週	発病後28日	患者の隔離 予防接種①生後3~48ヶ月 ②①の予防接種後12~18ヶ月 ③12歳に達する年	夏
麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで	発熱、せき、鼻水、めやに。頬の内側に白い斑点コプリック斑ができる 発熱後4日目より皮膚に発疹	気道飛沫	9~12日	発病後5日前~発病後4日間	患者の隔離 予防接種	冬~春
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身症状が良好になるまで	37~38℃の発熱。まず片側、ついで両側のおごの後ろが大きくはれて痛む。食欲不振、嚥下困難。	飛沫	1~2週	発病前7日から発病後9日	患者の隔離 患者の唾液のついたものが健康な人の口にふれないようにする	冬~春
風疹(3日はしか)	発疹が消失するまで	発熱、発疹、耳の後ろ、首、わきの下の腫脹。咳や結膜炎が充血する	飛沫 気道	2~3週	発疹の出る7日前~後の7日間	患者の隔離 予防接種	春~夏
水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	水ぼうそうのある発疹が体中に次々と出る。かさぶたとなり、先に出了ものから治っていく。	飛沫 気道	2~3週	発疹の出る1日前~後6~7日	患者の隔離	冬~春
咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜炎、くびのリンパ節の腫れ	気道 結膜 接触 汚染物	5~7日	発病後2~3週	服やのどの健康観察を行い、充血している者や目やにのしている者は水泳禁止とする。 水泳後よく流水で洗う	夏~秋
結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで	初期は自覚症状なし。X線での発見されることが多い。盗汗、発熱、体重減少、胸こり、咳、たん	飛沫	1~2ヶ月		BCG接種 X線による早期発見 栄養と休養に注意	なし
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医等において感染のおそれがないと認められるまで	高熱、頭痛、首が硬くなる(項部硬直)、結膜の出血斑、敗血症、けいれん	飛沫	2~10日		患者の隔離	なし

第3種学校感染症 病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで

病名	出席停止期間	主な症状	侵入経路	潜伏期間	感染可能期間	予防方法	好発期
流行性角結膜炎		涙がよく出る 目やに、異物が入っている感じ 結膜が充血する	気道 結膜 接触 汚染物	5~7日	発病後2~3週	感染力が非常に強いので患者の触ったものをよく消毒しておく。 手洗いの励行	春~夏 5月ごろ
急性出血性結膜炎		きつい充血 出血してくる	結膜 汚染物	1~2日	発病後5~7日	患者のさわったものをよく消毒しておく。手洗いの励行	春~夏
腸管出血性大腸菌感染症	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで	激しい腹痛が始まり、数時間後に水様性の下痢をおこす。嘔吐、悪臭がある。	経口	3~5日		手洗いの励行 加熱消毒を十分に行うこと	
コレラ		突然激しい水様性下痢と嘔吐で発症し、脱水に至る。	汚染物 経口	数時間~3日		手洗いの励行 体調管理 感染地域では、不衛生な生水・生物の飲食を避ける	
細菌性赤痢		発熱・腹痛・下痢・嘔吐などの症状が急激に現れる	汚染物 経口	1~5日			
腸チフス パラチフス		持続する発熱・発疹(バラチフス)・脾腫など。重症例では腸出血・腸穿孔も	経口	1~2週			